

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200229		
法人名	社会福祉法人清光会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	高崎市箕郷町矢原52番地3 (電話)027-371-0804		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・食事について、バイキング形式の昼食・おやつや季節感のある行事食(おせち・うなぎ・流しそめん・スイカ割りなど)を行い季節を感じながら食事を楽しんでいただいています。またおまんじゅう作り・ホットケーキ作り・焼きそば・おはぎ作りなど職員と一緒に調理する機会の充実に努めています。今年度は、特に手作りおやつに力をいれておいしいおやつを提供しています。</p> <p>・グループホームの理念にある地域との交流については、同一法人のケアハウスとの行事(もちつき・おまんじゅう作り・運動会など)を開催し交流。また、1日3名の共用型認知症対応型デイサービスを行い地域の方との交流も行っていきます。</p> <p>・ドライブや花見や散歩など外出行事行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、デイサービスが併設されており、日々地域の利用者と入居者が交流している。隣接する法人のケアハウスからグループホームへ入居された人が多く、季節行事の納涼祭や餅つきを合同で行ったり、日常的におやつのおまんじゅう作りを一緒に行なう等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、法人の併設児童館の子供達の運動会への参加や、子供達が訪れ入居者と交流している。その他、事業所は積極的に介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れ、入居者の意向の把握や確認に努め、一人ひとりの人間性を尊重した支援に取り組んでいる。災害対策においては、年2回消防署の指導を受け夜間と昼間の総合訓練を行なう他、毎月事業所独自に避難訓練を実施している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の全体朝礼にて、理事長が運営方針・理念を話している。 職員会議にて確認。 玄関とスタッフルームに運営方針を掲示。 	毎月の法人全体の朝礼時に、理事長より理念についての話や説明が行なわれている。事業所内においては、職員会議時に理念について皆で話し合い、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 隔月1回の運営推進会議には区長・長寿会・民生委員・に出席いただいている。 法人内のケアハウスとの交流行事開催。 納涼祭で地域住民と交流。 共用デイを実施。 	デイサービス利用の地域の人達と馴染みの関係を築き、法人の併設するケアハウスの人達とのおやつ作りや納涼祭・運動会を合同で行っている。また、実習生の受け入れや併設の児童館の子供達が訪れ交流が行われている。	さらに幅広い地域の人達との交流が図られるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 見学者など相談にのっている。 相談協力員会議や施設見学、相談等を行っている。 福祉学校の実習を受け入れている。 児童館利用者の施設見学を実施。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議では2カ月間の活動を報告を行い、前回より充実した報告ができるように努力している。 会議の席で地域との交流について相談や慰問依頼をしている。 	運営推進会議は、家族代表・区長・民生委員・老人会代表・市職員等の参加により、運営状況や活動状況を報告している。質疑応答では、区長より地域の状況説明があり、事業所運営に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に市職員の出席を依頼し、意見交換を行っている。また日頃より相談、連絡を行っている。 	市の担当者とは、更新申請時や運営推進会議通知・会議録を持参した際に、事業所の状況を説明し相談している。また、市主催のイベント情報や講習会開催の情報を得て、事業所運営に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 現在、拘束は行ってない。 身体拘束廃止推進員養成研修に参加。 	身体拘束をしないケアについては、県や市主催の各種研修会への参加や法人によるマナー研修会に参加し、職員間で話し合い、言葉による拘束を含め身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 全職員間で互いに注意し、業務している。 内部研修や申し送りにて、定期および随時言葉づかいや、対応について確認を行っている。 人権擁護推進員養成講座に参加している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員が制度を理解し、利用者2名が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は、施設長・事務長・管理者が、家族に説明を行い納得していただいている。 ・利用料等サービス内容変更時には、説明をし、同意の確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情窓口を設け苦情処理。改善に努めている。 ・会議や朝の申し送りなどで職員で話し合い反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが投稿はなく、面会時や利用料支払いに家族が来所した際に直接、意見や要望を聞くようにしている。出された意見は、職員会議で話し合い結果を家族に説明し了解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員会議を実施し、管理者と職員と意見交換を行っている。また、その意見を主任者会議に反映させている。 ・随時、意見交換を行い業務などに反映している。	毎月の職員会議で職員の意見や提案を聞き、出された意見を主任者会議時に反映させている。また、年に1度意識調査を行ない、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課を実施。 ・公務員給与に準ずる。 ・処遇改善手当を支給。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員会議やミーティングでケース検討などを行い職員全体の向上に努めている。 ・内部研修や施設見学・外部研修・研修報告などを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内の他部署との意見交換や相談を行っている。 ・他施設の見学を実施。 ・定期法人職員研修を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者の声に耳を傾け、利用にあたり不安のないように努めている。 ・デイのお試し利用・家族と一緒に見学・花見などの行事参加など行い安心していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・何回かの面接を実施し、現在困っていること不安なことを聞きながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・施設の見学時や新規入居の相談時にグループホームの説明だけではなく他のサービスも同時に説明を行いサービス利用の参考となるよう説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、利用者との触れ合いの時間を多く持ち一緒に献立を考えたり、一緒に料理や掃除・工作や行事を行うことにより、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会や外出等の協力をお願いしている。 ・面会時や月一度の電話連絡等、定期及び随時情報を共有している。 ・家族も参加できる行事への参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会は、制限しないようにしている。 ・家族や馴染みの人との交流が図れるような行事を行っている。	面会は制限をせず、家族や馴染みの人が訪れている。家族と一緒に、墓参りや買い物に出掛けたり外泊をしている。また、併設ケアハウスからグループホームへ入居になった人が多く、日常的におやつ作りを一緒に行なう等、馴染みの関係に配慮し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・トラブルや孤立することが無いよう席替え等を実施し、未然に防ぐように調整している。 ・必ず職員が利用者と共にレクを実施し、交流を図り、皆が関わり合うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・相談や利用時の情報提供を行い支援を行っている。 ・利用終了後も、本人への面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・月1度、介護相談員・傾聴ボランティアの来園により悩みなど相談にのっていただいている。 ・職員がかかわる時間を多く持ち、希望や悩みなどの把握に努めている。	日々のコミュニケーションを大切にしている。入浴時等には、個別に思いや意向の把握に努めている。帰宅願望など不穏時は、ドライブに誘い気分転換を図っている。また、介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れ、入居者の思いや意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の面接調査・これまでのサービス利用事業所などに状態報告などいただき把握している。また、入居後も随時、家族や本人などから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケース会議や申し送り・ケース記録などで状況を把握し職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議でこれまでの情報をもとに毎月モニタリングをし介護計画の見直しを実施。	毎月モニタリングを行ない職員会議で話し合い、介護計画は3ヶ月毎に見直しをしている。家族には、毎月の利用料通知と共に本人の状況を伝え、意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。	個別記録において、日々のケアが介護計画に沿って実施されたものであるような記録方法について検討されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース記録・日誌などで共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度、柔軟に対応。その時に対応出来ないことは家族に相談したり、その後の行事や対応に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・カットのボランティアの利用。 ・介護相談員・傾聴ボランティアの1回の訪問。 ・ドライブの実施。 ・ケアハウスとの交流行事の実施。 ・演芸慰問などの依頼。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医には家族または職員から直接状態報告を行い適切な診断・処置されるように援助。 	<p>馴染みのかかりつけ医の受診を支援し、殆んどの方が家族が対応し、かかりつけ医に受診している。受診時は、日常の様子を家族に伝え、受診結果を聞き職員間で共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・同一法人内の看護職に相談・緊急時の対応等、協力をしている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、介護サマリーなどでの情報を提供している。入院後も家族と連絡を取りながら退院時の相談を行っている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が重度化した時に家族と相談をしながら支援を行っている。 ・入居時や見学时など重度化した場合の選択肢についても説明を行っている。 	<p>入居時や見学时に、重度化した場合の選択肢について説明している。排便コントロールが困難な方や褥瘡などによる医療的処置が必要な方については家族と相談し、特別養護老人ホーム・医療機関等へ移っていただいている。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修を実施している。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回法人全体で消防と共に避難・消火訓練を実施している。 ・毎月、単独で避難訓練を実施している。 	<p>年2回消防署立会のもとに、法人全体で夜間・昼間に於いての避難訓練を実施している。また、毎月事業所独自で避難訓練を行っている。運営推進会議時に近隣の方々の協力依頼をしているが、まだ参加はされていない。備蓄は、法人本部で行なっている。</p>	<p>災害対策においては、訓練時を含め近隣の人達の協力が得られるような体制の取り組みに期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護に努めている。 ・契約時、個人情報の取り扱いについて同意を得ている。 ・接遇研修を実施や申し送りにて、定期及び随時確認を行っている。 	法人内での研修会や日々の申し送り時に、具体的な対応について話し合いをしている。居室入室時のノックや声掛け・排泄誘導時や入浴時の対応においてプライバシーに配慮した言動に注意し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類販売会・バイキング形式のおやつ・昼食など選択できるような行事の実施。 ・日々、利用者と一緒に献立を考えている。 ・外食の時は事前に注文をとり対応。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話の中からおやつ・献立・レクなどの希望を聞き当日の献立やおやつの変更を行ったり、散歩や庭でのおやつなど柔軟に対応している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者に対して、カットのボランティアをお願いして、カット・髪染めを実施。その他の方は、ご家族に対応していただいている。 ・業者に依頼し、衣類販売を実施。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・バイキング形式・外食・季節に合わせた行事食など実施。 ・おまんじゅう作り・ホットケーキ作り・焼きそば作りなど一緒に作ったりしている。 ・外全や簡単な食事の下準備など協力していただいている。 	献立は、入居者の希望を聞きながら季節の食材を使用し、調理している。また、流しそうめん・さんま焼きなど行事食を行ない、食事が楽しみなものになるよう工夫している。入居者は食事の準備や片付けなど、出来ることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人にあつた食事形態や食器など工夫。 ・現在は提供する方はいないが、刻み食やミキサー食を提供したことがある。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアの声掛け・介助の実施。 ・週1回の義歯消毒の実施。 ・状態に応じ、家族に相談をして歯科通院または往診を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個別での声掛け・誘導・介助を行いトイレでの排泄を実施。 ・紙パンツ・尿とりパット使用・夜間ポータブルトイレ使用など利用者ごとに合った排泄支援を実施している。	排泄支援においては、起床時・10時・昼食後の定時にトイレ誘導・介助を行なっている。便失禁の方は処遇記録に記載し、職員間で注意し支援している。	個別の排泄パターンの把握方法を検討され、適時のトイレ誘導などにより、トイレでの自立した排泄の支援に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物の工夫・マッサージ・内服の調整などを行い排便コントロールを実施。 おやつにヨーグルト・ヤクルト・牛乳など取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・安全面に配慮し、時間帯や曜日が決まっているが、今後希望に応じて入浴機械を増やしていく。	入浴は週2回を基本としているが、夏季は毎日入浴できるよう支援している。入浴拒否の場合は、声かけの工夫や日を改めて誘う等、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室の室温・寝具や衣類の調整、医師との相談などを行い実施。 ・夜間帯における不安の訴えには、会話を通して不安を軽減させている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・通院時、家族からの報告や病院からのお薬説明書などからの情報を職員で共有。 ・症状や状態に変化があった際には、医師に相談し、内服の変更を行う場合がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・行事・レクリエーションを実施。 ・個別で工作や園芸や習字などを実施。 ・各々の生活歴を重視し、掃除や洗濯たみ、調理等、できる部分を職員と共に行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・家族による、外出支援をお願いしている。 ・花見・公園などへのドライブを実施している。 ・個別で散歩や買い物・庭での活動も実施している。	苑庭の桜の花見を皆で楽しんだり、季節毎にドライブを兼ね近隣の菖蒲園・コスモス見物に出掛けたりしている。また、家族と一緒に食事や花見に出掛けているが、日常的な外出の機会は少ない状況である。	安全に配慮しつつ、散歩等の日常的な外出支援の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理出来る方に対しては、小遣い程度を家族より預かり、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・職員が間に入り電話をかけお話出来るように援助している。 ・電話後、職員が家族と変わり内容の確認を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールには、植物・壁面や置物など季節ごとに替えて季節感を演出している。	共用の居間には、季節感のある入居者の作品や行事の写真が飾られている。昼食後は居室に戻る人・ソファで寛ぐ人など、思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファを置いたり、ベランダに椅子やベンチを置きくつろぎの場所として使用。 ・ベランダでプランターなどで花を育て面倒を見ていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、使い慣れた家具などを持参していただいている。	各居室は湿度管理のため、濡れタオルが掛けられている。使い慣れたベッド・タンス・テレビまた、仏壇や位牌などが置かれ、本人が安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホールに大きめの日めくりカレンダー・ホワイトボードに本日の献立を掲示。トイレや風呂などわかりやすい看板を設置。 ・ホールなど季節がわかるように飾り付けを行っている。		